
おおかみっ！

わんちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おおかみっ！

【Nコード】

N3179B

【作者名】

わんちゃん

【あらすじ】

クリスマスの日に、天野氷狼から笑いのプレゼントを……。

「待て〜！！！！！！！！」

「誰が待つか〜！！！！！！！！」

突然ですが、絶体絶命です。俺は今、狼人9姉妹の一人、遠野紅麗とおのくれいに追われています。（涙）

ここで読者のために、説明会を開きたいと思います（わ〜い、わ〜い！）

え？んなもん期待してないし、それよりちゃんと逃げろだつて？まあまあ、そう言わないで聞いてくださいよ、つと！

じゃあとりあえず、まずは狼人について説明しないとな。お気づきのとおり、狼人とは狼男のような人間のことだ。まあ、姉妹は女の子だから“ウルフ　ウーマン”ってところだろう。まあ、俺の英語談義なんかどうでもいいか。実を言うと、俺は狼人姉妹の兄で、俺も狼人なのだ。そして、兄妹ともに全員義理なのだ！なんというハーレム！どうだ？羨ましいだろう！

しかし、ここで油断は禁物だ！相手は仮にも狼人（俺もだが）、常人が触れたらヤケドするぜ？まあ、そんなことはどうでもいいか。問題は、なぜ狼人がいるかということだ。いきなりだが、俺たちは“賢者の指輪”という、実験によって心臓に埋め込まれた指輪のせいで、狼人なんてわけわからん人種をやらされている（断じて某指輪三部作映画のパクリではない）。

まあそんな解説は置いて、なぜ俺が今赤髪の紅麗に追いかけられているかという、理由は数十分前にさかのぼる。

その時、歴史が動いた………。

あおはみどり

今日は4組の紅麗、青葉翠里の狼人コンビ（因みに俺は5組）と昼食を一緒にするわけだったのだが、その時にたまたま俺と一緒にいった親友の朱哉がとんでもないことをしてしまった。なんと、バナナの皮で滑った（っていうか、なんでバナナの皮があるの？）というなんともベタなコケ方をしたせいで、前を歩いていた俺に激突してしまい、紅麗の好物のみたらし団子を落としてしまったのだ！床に飛び散るみたらしのタレと串から旅に出たお団子。肩を震わせ鬼の形相になる紅麗。

そして、今の展開。ホント、やんなっちゃうよね。俺はただのとはつちりを受けただけなのに。振り向いたら朱哉はいつの間にか消えていて、置き手紙で【スネ。ク、健闘を祈る】だったさ（´Д、`）

「氏ね!!」

「うお!?!」

愛刀封雷剣を振り下ろす紅麗。俺がそれを間一髪で避けると、教室

の窓ガラスに当たり粉々にした。

「なぜ避ける!?!」

「なぜだつて?それは生きたいからさ!」

隙をついてまた逃げる俺。何処に行こう!?何処なら隠れられる!?

そう思ったとき、前方にトイレもとい英語でバス・ルームが見えた。とりあえず、彼処に隠れよう。因みに、外国に行ったらトイレって言っても通じないから、みんな気をつけるんだよ

さて、とりあえず洋式トイレに逃げ込んだけど、大丈夫かな?流石に他の男子もいるから、入ってくるハズはないと思うんだけど...

「君たち、ここに天野氷狼くんはいるか?」

アウトローキター!?!?

「うん、洋式の右から三番目にいるよ」

しかもナチュラルに教えやがった!?

「ありがとう」

ヤバい、ヤバいよ！近づいて来る！っていうか、それ以前に男子トイレに自然に入っているのがヤバい！なんで男子は誰も止めないんだ！？

「ボソボソ……やっぱり遠野さんと天野ってデキてたんだな。」

「ボソボソ……ああ。邪魔にならないように、早く出て行ってやるうぜ。」

「ボソボソ……それもそうだな。」

え？なに？新手のイジメ？っていうか、勝手な勘違いしないで！頼むから助けてよ！

「氷狼くん、みーつけた！」

あ、みつかつちゃった　じゃねえー！！！！

「良いノリツツコミだな」

いや、顔が怖いんですけど？っていうか、なんでムチなんか持つてんの？さっきまで剣持ってたじゃん！

「お仕置きだ！」

「いやあゝゝ！！！！！！！！！！」

同刻、五組では。

「あれ？」

「ん？銀司、どうしたの？」

逃げてきた朱哉が、親友の銀司と昼食を食べながら聞く。

「いや、今氷狼の声が聞こえたような……」

「……気のせいだろ」

キンコンカンコンコン

「それではコレより、天野氷狼くん拷問パーティーを開きたいと思います！」

青髪の狼人、由香里の指揮の元、一同（俺を除く）拍手で盛り上がる。部屋の回りには、痛めつけられて喜ぶ部類の人が嬉しがりそうな物が沢山置かれていた。

「うわー嬉しいなー」

あくまでも上の空な俺。そもそも拷問って時点でパーティーじゃなくね？それにお前らどうやってこんな大人のオモチャ手に入れたんだ？お兄ちゃんはそのんな子に育てた覚えはありません！

「くだらないこと考えてないで、おとなしくお縄につけや」

いや、もうお縄についてるし。

「分かったか!？」

「わ、わかりました金田瑞穂さま! 今日もブロンドの髪が美しいゆうございますね!」

「うむ、よろしい」

いや、よろしくない。なんにもよろしくないですよ。

ピンク髪の女の子、潤葉音夢が近づいて来る。

「お兄ちゃん、最後に言いたいことは？」

「俺は無実だ!俺じゃない!悪いのは俺じゃないんだ!朱哉がやつたんだよ!」

「そう、じゃあ、今すぐ楽にしてあげるね」

ホッ、これでなんとかなるかな?

「みんな、お兄ちゃんが準備OKだつて!」

!?? イッテナイヨ!?? お兄ちゃんそんなことイッテナイ!!

『それじゃあ皆で逝ってみよう!』

いや、字が違うよ？それに、ロウソクはいかがなものかと思っぞ？
ムチはムチでビラビラになってて、何かヤバい感じだし。

「天野氷狼、今助けに来たぞ！」

そこに現れた騒ぎの元凶である朱哉。朱哉を見て啞然とする一同。

「紅麗、あいつだ！あいつが団子を落としたんだよ！」

「なに！？氷狼、それは本当か！？」

さつきからそう言っただろうが。

「ひい！？逃げろ！」

「待て！逃がすかあゝ！」

逃げる朱哉、追いかける紅麗。

『……とりあえず、続きだゝゝ！！……あれ、氷狼がいない！？』

「助けてくれてサンキューな。なんだ銀司、お前も来てたのか？」

「まあな」

「助けてくれー!!」

「待て貴様!!逃がすかあ!!」

「お兄ちゃんどこお!？」

『氷狼、どこだあ!』

……はあ。勘弁してくれよ。

時刻はもう夜、冬の夜は冷えるな。

ちやららゝららゝちやららららゝゝ

お!チャルメラかあゝ。なんか腹減ってきたなあゝ。

「なあ銀司、ラーメン食い行かねえ？」

「お!良いねえゝ!じゃあ、食いに行くかあゝ!」

それじゃあ皆さん、メリークリスマス!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3179b/>

おおかみっ！

2010年10月18日17時03分発行